

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 68 号 (H29.3.29)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 3月も下旬となりました。3月は旅立ち、異動、別れの季節ですね。年度末となり、各学校の卒業式では喜びと別れの涙が見られ、職場でも異動の準備等が行われていることと思います。

事務局のある宮崎市の私の地域では、超早場米の田植えが終わり、山桜や陽光桜などの桜が満開となっています。南北に長い日本ではまだ雪深い地域もあり、ヨメイヨシノの开花宣言一番乗り東京との報道がありました。各地でも桜前線の上昇が待ちどおしいのではと思います。

今回は、現地での巡回診療等の活動報告 (大変な状況がありました) や最近のザンビア情勢について在ザンビア日本大使館からの情報をお伝えします。



現地活動報告 (ザンビアより芦田様から)

◎2月22日報告 ルアノ地区

同行者： ムレタさん、シバンダさん、チブリカさん

CHW： バージニアさん、マーティンさん、マチラさん

患者数： 58人 マラリア検査数 58人うち陽性 6人 主な症状は頭痛、風邪

重篤なケース： なし

*道路状況： 前回の訪問後、村長が村人を3日程度動員して、川の周囲やぬかるむ場所に石を敷き詰めてくれたため、問題なく訪問することができた。

*蚊帳販売： なし (購入を希望する村の人々が、川の水量が多く診療に来られなかったとのこと)

◎3月1日報告 サンドラ地区

同行者： ムレタさん、ンゴンベから1名、シバンダさん

***大変な状況に** サンドラへ向かう途中で車2台が交互にスタックし、動くまで4時間ほどかかったため、診療は中止、薬品をコミュニティヘルスワーカーに渡し、蚊帳を販売して引き返しました。

しかし、丘のあたりで一台がまたもや動けなくなり、しかもギアをドライブに入れてもタイヤが動かなくなり、牽引を試みるもチェーンが切れ、仕方なくダニエルとムレタさんは車中泊。ギルバートはもう一台の車で一旦スタッフを送り届け、翌2日に私と連絡を取った後、現場に戻りました。

シバンダさんのアレンジのもと、現場から30キロ以上はなれた農場でトラクターを借り、レスキューに向かい、結局20時ごろルサカに戻ってきました。

*蚊帳販売： 36個

◎3月10日 ルアノ地区

(車両が一台のみ使用可だったものの、診療を必要とする人がいるとシバンダさんが主張し、ムレタさんも同意したため、同行者を限定し、簡易版として実施しました。なお道路状況を鑑み、ルアノのセンターよりかなり手前のコミュニティスクールで診療を実施しました)

同行者：ムレタさん、シバンダさん

患者数： 43人 マラリア検査数 43人うち陽性 42人 重篤なケース： なし

(蚊帳の売れ行きが良いのにマラリアがかなり多いことについて、テンボさんは、住民が蚊帳を魚を採るための網として使っている可能性があると話していました)

*蚊帳販売： なし

◎3月15日 ニャンカンガ地区

同行者： ムレタさん、チブリカさん、シバンダさん（ンゴンベからのヘルプは不参加）、学生5名

CHW： モーゼスさん、エバリンさん

患者数： 128人 マラリア検査数128人うち陽性32人 主な症状：下痢、頭痛、STI

重篤なケース： 女性1名について、目が見えなくなったとのことでチョングウェヘリファームワプラクリニックまで乗せて行った

*診療に来た住民が多かったこともあり、帰路に着いたのが19時過ぎで、ロッジに戻ったのは24時を回っていた

*蚊帳販売： なし

*道路状況： モーゼスさんより問題なしと連絡を受けて診療へ向かったのですが、結果的にはムワプラからニャンカンガまでが悪く、時間がかかった。道路については雨季が終わった4月以降に住民たちが修復するとのことです。

*学生さんたちの様子

モーゼスさんらが周辺の案内をし、診療や調理の手伝いをしてもらった。テンボさんとしては、特に問題なかったと感じたが、とても疲れていて車内ではずっと寝ていた。後日の報告が楽しみです。

◎3月22日 ルアノ地区

同行者： ムレタさん、エリザベスさん、チブリカさん、シバンダさん

CHW： エバリンさん、マチラさん、マーティンさん、バージニアさん

患者数： 138人 マラリア検査数138人うち陽性32人 主な症状：下痢、頭痛

重篤なケース： なし

*蚊帳販売： なし

*道路状況： 引き続き良くはないため、前回同様コミュニティスクールにて実施。診療には2村の村長も来ていて、乾季が来た際には、関係5村で手分けして道路のメンテナンスを実施することで合意。

*レンタカー： 22日もレンタカーで行きました。今回も、でこぼこ道で排気管をこすって、前回とは別の場所を壊してしまい、テンボさんがすぐに溶接に持って行きました。

*テンボ兄弟が元気に頑張っています。

ザンビア情報（在ザンビア日本大使館からの情報）

◎2月16日：日本への国費留学の経験者と予定者等との懇談会を開催

大使館では毎年4月から5月にかけて、国費留学生を募集しています。この留学制度は、日本と諸外国との国際交流、友好親善を促進するとともに、各国の人材育成に貢献することを目的として創設されたもので、ザンビアからは毎年2～3名の学生が国費留学をしています。

懇談会の実施により、留学生会の会員相互間のネットワークが強化され、同会の活動が活発になると共に、両国の友好関係の基礎が強固なものとなることが期待されます。



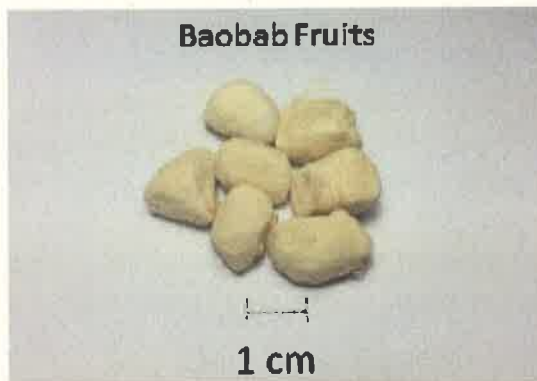
大臣と本年の国費留学予定者

◎「ザンビア起業家の情熱と支援活動」～ザンビア産の自然食品～

(JICA シニア海外ボランティア ザンビア開発庁ビジネスアドバイザー澤村康史氏の投稿から)

ザンビアは自然豊かな国です。ザンベジ川やカフエ川などの豊かな水源に生まれ、森林やサバンナには数多くの動物たちや植物が手つかずのまま保護されています。

・ザンビア産の自然食品：バオバブと蜂蜜 ザンビア南部のサバンナ地域にはバオバブ (Baobab) が群生する地域があり、数百年成長を続ける幹を介し鮮やかな白い花を咲かせた後に、フルーツの味覚を我々に提供してくれます。バオバブはマダガスカル産が有名ですが、ザンビアでも高さ30m、直径が10m近くある大木もめずらしくなく有機バオバブとして実をフルーツやパウダーとしてザンビアの自然食品専門店を経営する起業家が市販しています。植物が育ちにくい乾燥したサバンナなどで生息するため、バオバブは神宿る木として信仰されている地域もあります。ビタミンC、カルシウム、ミネラルなどが豊富で、食べると酸味があってソフトなレモン味がします。私は、スプーン一杯のパウダーをミルクやジュースに入れて飲んでいきます。



ザンビアの森やサバンナには、化学肥料などと無縁な地域が存在しています。大手のザンビア養蜂企業の中には、森の奥地に住む村民数千人と契約をして彼らの純粋な有機蜂蜜を購入することで、村民の貴重な現金収入源を支援している企業があります。ザンビアでは、この有機蜂蜜が日常的に愛飲されており、私も紅茶やヨーグルト、パンなど砂糖代わりに毎日食しています。日本で愛用されているアカシア花の蜂蜜と比較すると、ザンビア産は百花蜂蜜が主で色が濃厚で、味に深みがあり、一度飲むと癖になる甘さです。主なスーパーマーケット、地方の小売店や街道沿いでも販売されており、薬代わりに飲んでいるという人たちもいます。



村人たちによる古典型的な養蜂 Forest Fruits社提供

日本での蜂蜜の原産はアジア、南米などが有名ですが、重工業などの産業進出や農家の化学肥料の多用などにより、有機食品が減少してきていると聞きます。健康ブームで、需要は伸びつつあるようですので、近い将来ザンビア産有機食品が日本企業との提携などにより、食卓にもっと並ぶ日も近いかもしれません。

*ザンビアの産業が発展し、その恩恵が多くの人々に広まっていくとよいですね(事務局)

